

特集2

「長野県は宇宙県」キーワードラリー2020

衣笠健三（国立天文台野辺山）、ほか「長野県は宇宙県」連絡協議会

1. はじめに

「長野県は宇宙県」連絡協議会は、長野県の持つ「宇宙に近い」という資産を多くの人と共有することにより、地域振興、人材育成、観光、そして観測環境維持などに寄与することを目的として、長野県内の天文関係者を中心に産官学民が協力して2016年11月より活動しています[1]。

観光に寄与する活動の一環として、「長野県は宇宙県」が最初に行ったイベントがスタンプラリーです。2017年の夏休み期間より毎年継続して実施してきました。初年はクラウドファンディングにて資金調達を行い、翌年からは天文関連業者や実際に参加する宿泊業者からの寄付金や協力金を頂くとともに、長野県や自治体とも協力しながら実施してきました。長野県内の約50の施設見学、または天文イベントに参加して、スタンプを集め、集まったスタンプ数に応じて景品がもれなくあたるという内容です。毎年1万人を超える方が参加してくださっており、恒例となりつつあるイベントです。

しかしながら、今年は新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、オンラインにて参加できるキーワードラリー2020を実施することにしました（図1）。



図1 「長野県は宇宙県」キーワードラリー2020 ホームページ

2. オンラインイベントに向けて

新型コロナウイルスの感染拡大によって「今年のスタンプラリーはどうするか？」と2020年度の初めには既に検討課題となっていました。その後の緊急事態宣言によって長野県内で開かれる「諏訪湖花火大会」などの夏の大型イベントが相次いで中止となるなか、例年のように実施することは無理ではないかという雰囲気がありました。また、これまでのスタイルは一般のスタンプラリーと同様に施設見学や天文イベントへの参加を促すものでしたので、その方法でないと寄付金や協力金をお願いすることも難しいのではないかと、資金面でも課題がありました。

一方、毎年8月下旬に実施している国立天文台野辺山特別公開では通常開催を断念し、オンラインでの開催としました[2][3]。公開日当日は講演会や望遠鏡操作などのライブ動画を配信します。それとともに録画した動画も用意しておきます。当日または後日に視聴する参加者にはライブかライブでないかに関わらず、動画に出てくるキーワードを集めることで、通常開催時に行うスタンプラリーと同様に、景品をプレゼントすることができるようにしました。

「『長野県は宇宙県』で野辺山特別公開と同じような形でオンライン開催はできないか。」この思いつきがキーワードラリー2020の始まりとなりました。オンラインで参加できるようにするというので、賞品は少数限定として抽選方式にすることと、参加賞としてはそれぞれが印刷できる星座早見などを用意することにしました。

オンラインにすることで、ある程度の予算は削減できるのですが、予算の目処がつかない

いと進めることができません。そのような状況のなか、「新型コロナウイルスの影響により例年行なっているイベントが開催できないため、『長野県は宇宙県』のイベントに協力したい」という申し出がありました。一昨年、昨年とスタンプラリーで協力いただいている財団です。渡りに船とも言える申し出によって資金面の問題もほぼなくなり、キーワードラリーの本格的な準備を始めることができるようになったのです。

2020年10月初旬に、例年のスタンプラリーの実行メンバーを中心にキーワードラリー2020の実行委員会を組織、議論を始め、現実的な実施期間、イベント参加方法、賞品の内容などの詳細について検討をしました。

開始までに時間が少ないため、各施設に動画の提供を呼びかけても対応できるのかがとても不安でした。しかし、プラネタリウム施設などは実際にオリジナル動画を作成しますし、長野県天文愛好者連絡会の会合では実際に動画を撮って星の会などの動画を作成するなどを行い、最終的には25を超える動画を準備することができました。

12/12(土)には、キックオフイベントとして動画コンテンツを提供する形で、東大木曾観測所からライブ中継も行いました(図2)。「長野県は宇宙県」とキーワードラリーの紹介のあと、観測所に設置している動画カメラを見ながらのふたご座流星群の観察、長野県内で実施しているライブイベントの中継、そして、木曾観測所にある設備を使っでの電視観望会などを実施して配信しました。さらに、2/6(土)には「長野県は宇宙県」公開講演会として、JAXA 吉川真氏による講演会もライブ配信をするとともに、こちらも動画コンテンツとして再生視聴可能にもしています。

3. 「長野県は宇宙県」キーワードラリー2020

キーワードラリーの参加方法は、ホームペ



図2 キーワードラリーキックオフイベント

ージ(図1)[4]上の「動画を見る」にある動画を視聴して、動画にあるキーワードまたはクイズの答えを5つ答えてもらうというものです。開催期間は、2020年12月12日(土)~2021年2月28日(日)の79日間。表1に賞品を列挙します。抽選にて当選者を発表する形式ですが、エントリー賞などの参加賞のほか、動画コンテンツごとにオリジナル壁紙、または、イメージキャラクター「ほしくま」のカレンダーなども用意しています。

表1 キーワードラリー賞品一覧

賞	内容	数
「長野県は宇宙県」賞	ビクセン モバイルポルタ-A70Lf 天体望遠鏡	1
シリウス賞	スコープテッククラブトル 50 天体望遠鏡	2
プロキオン賞	木曾観測所撮影バラ星雲ジグソーパズル	10
ベテルギウス賞	オリジナルトートバッグ	20
信毎賞 (本文参照)	国立天文台望遠鏡キット(三脚セット)	10
野辺山賞	野辺山観測所オリジナルカレンダー2021	100
エントリー賞	ほしくま星座早見工作キット	全員

信毎賞は、他とは異なり、長野県内の小・中学生限定の賞品です。長野県の地方紙である信濃毎日新聞社の厚意により、2019年度に「長野県は宇宙県」の広告を夏冬春に出して頂きました。「長野県の子どものための育成のために」ということで記事に賛同する地元企業からの寄付を頂きました。この寄付金に応答する形で設定した賞です。

オンラインでのイベントになったことで、長野県から遠くの方にも参加できるようになったことは「長野県は宇宙県」を多くの方々と共有するという意味で大きな利点となっています。



図3 キーワードラリーチラシ

4. 現状と今後に向けて

原稿執筆時は、キーワードラリーの実施期間終了まであと一週間となってきました。参加に必要なのは、5つの動画コンテンツを見るだけで、あまり時間はかからないこともあり、SNSなどを通じて呼びかけているところです。これまででも、雑誌「星ナビ」2月号やアストロアーツホームページ[5]などで

取り上げて頂いています。長野県内では、動画を提供して頂いた団体を中心に、チラシ(図3)を配布しています。実施期間終了後の予定としては、オンラインでの抽選会、そして、授賞式の実施を検討中です。

来年度(2021年度)以降のスタンプラリー/キーワードラリーについては現在検討中です。2017年から4年間継続して実施したこのイベントを通じて長野県内の施設や天文関係者などの産官学民による連携協力体制が構築されてきました。コロナ禍によるオンライン化、そして、新しい形を模索する段階であるかもしれませんが、このような協力体制を生かした取り組みとしていきたいと思えます。

文献

- [1] 衣笠健三 (2019) 「『長野県は宇宙県』の活動」第33回天文教育研究会 2019年日本天文教育普及研究会年会集録, 218-223
- [2] 衣笠健三 (2020) 「今年はおうちで特別公開 ~野辺山特別公開2020~」第34回天文教育研究会 2020年日本天文教育普及研究会年会集録, 131-134
- [3] 国立天文台野辺山宇宙電波観測所特別公開2020
https://www.nro.nao.ac.jp/visit/open2020/open2020_top.html
- [4] 「長野県は宇宙県」キーワードラリー2020 ホームページ
<https://uchuukun.jpn.org/2020keyword/index.html>
- [5] アストロアーツホームページ
<http://www.astroarts.co.jp/>



衣笠 健三